

本委員会における検討の視点（案）

◎第4回担い手確保・育成検討会における提案「建設技能労働者に係る教育訓練の新たな展開」（平成25年3月25日）

技能労働者の移動負担等を考慮すると、日常的に教育訓練を受けられる身近な施設が必要である一方で、高度な内容や大規模な施設・設備を要する訓練、ニーズがまれではあるが必要な訓練、宿泊を伴い集中的に行うことで効果を上げる訓練などを、様々な主体がバラバラに行うことは不効率である。このような訓練ニーズには、業界全体の合意のもと、特定の訓練施設に特定の訓練機能を集中させることが有効と考えられる。

このため、元請団体及び下請団体が連携しつつ、業界全体で共同利用が可能な、特定の訓練機能を担う施設を定め、ここに対する薄く広い支援を集中させることを業界として進めることとしてはどうか。

◎「建設産業の人材確保・育成に係る現状と課題－中核的センター機能の確立－」（（一財）建設業振興基金 平成25年5月）（抜）

◆地域の雇用を担う建設産業が学校と社会をつなぐ仕組み作りの一環を担う

◆教育訓練を通じ、技術・技能の承継と働く者のキャリア形成を担う

◆そのため、次のような機能を担う「中核的センター」の姿を明らかにする

（中核的センターの機能）

- ・技能労働者や技術者に対する体系的な教育訓練を実施
- ・企業や団体に取り組む教育訓練に対する支援や情報提供
- ・教育機関等（工業高校、専門学校、大学）に取り組む実習教育に対する支援や情報提供
- ・国、地方公共団体との総合調整
- ・学生・生徒、保護者、教育機関などへの広報活動

（富士教育訓練センターの拡充）

- ・中核的センターの拠点となる機関として「富士教育訓練センター」を位置づけ、拡充を図る

上記提言等を踏まえ、例えば、以下のような点についてご議論いただけたらどうか。

① 訓練施設の機能分担（訓練機能の集中や連携・協力）

特定の訓練施設に特定の訓練機能を集中させるなど、訓練施設相互の機能分担を進めるため、どのような視点に留意し、取組みを進めていくべきか。

- ・ 技能労働者や技術者に対する体系的な教育訓練、入職促進や新人・中堅向けの教育訓練など、ユーザー（企業や団体、教育機関等）のニーズに沿った内容やカリキュラムとするため、どのような視点に留意し、取組みを進めていくべきか。
- ・ 三田建設技能研修センターを始めとする他の訓練施設との連携・協力やネットワーク化を進めていくため、どのような視点に留意し、取組みを進めていくべきか。
- ・ 教育機関等が取り組む実習教育に対する支援や情報提供を進めていくため、どのような視点に留意し、取組みを進めていくべきか。

② 富士教育訓練センターのハード面の充実強化

富士教育訓練センターの位置づけ、機能、研修内容等を踏まえ、必要な施設の再整備、老朽化対策等のハード面の充実強化を図って行く上で、どのような視点に留意し、取組みを進めていくべきか。

③ その他